

# 決算説明会

## 2022年3月期 第3四半期

**ミネベアミツミ株式会社**

**2022年2月4日**

# 3Q連結業績サマリー

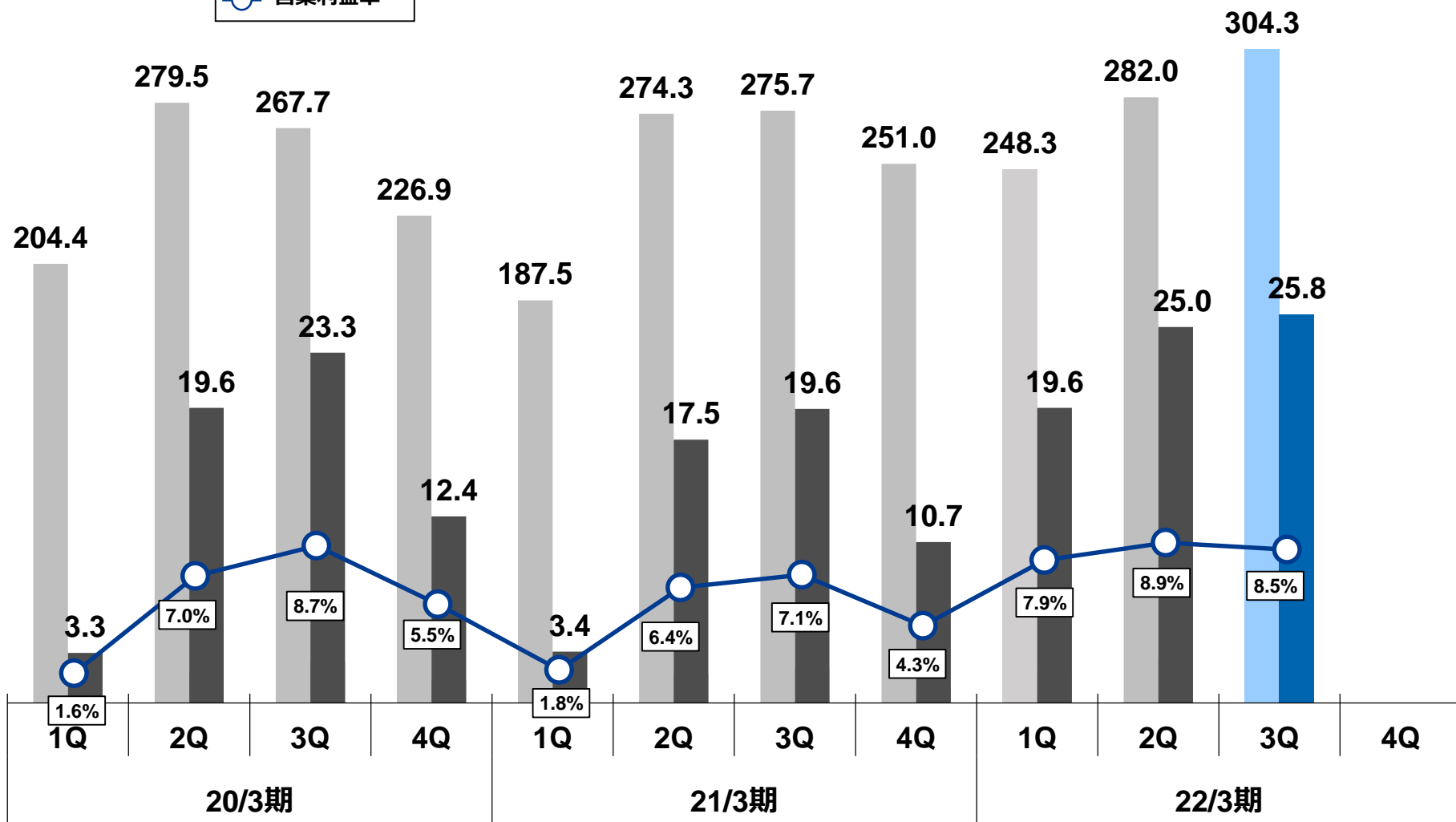
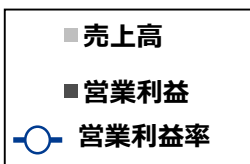
**売上高は四半期として過去最高  
累計では売上高、営業利益、当期利益で過去最高**

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	275,709	281,955	304,348	+10.4%	+7.9%
営業利益	19,552	25,005	25,832	+32.1%	+3.3%
税引前利益	19,349	24,716	25,122	+29.8%	+1.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	16,142	20,393	18,395	+14.0%	-9.8%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	39.53	50.36	45.42	+14.9%	-9.8%

為替レート	2021年3月期 3Q	2022年3月期 2Q	2022年3月期 3Q
US\$	104.76円	110.10円	112.47円
ユーロ	123.56円	130.82円	130.44円
タイバーツ	3.38円	3.40円	3.39円
人民元	15.62円	17.05円	17.52円

# 売上高、営業利益、営業利益率

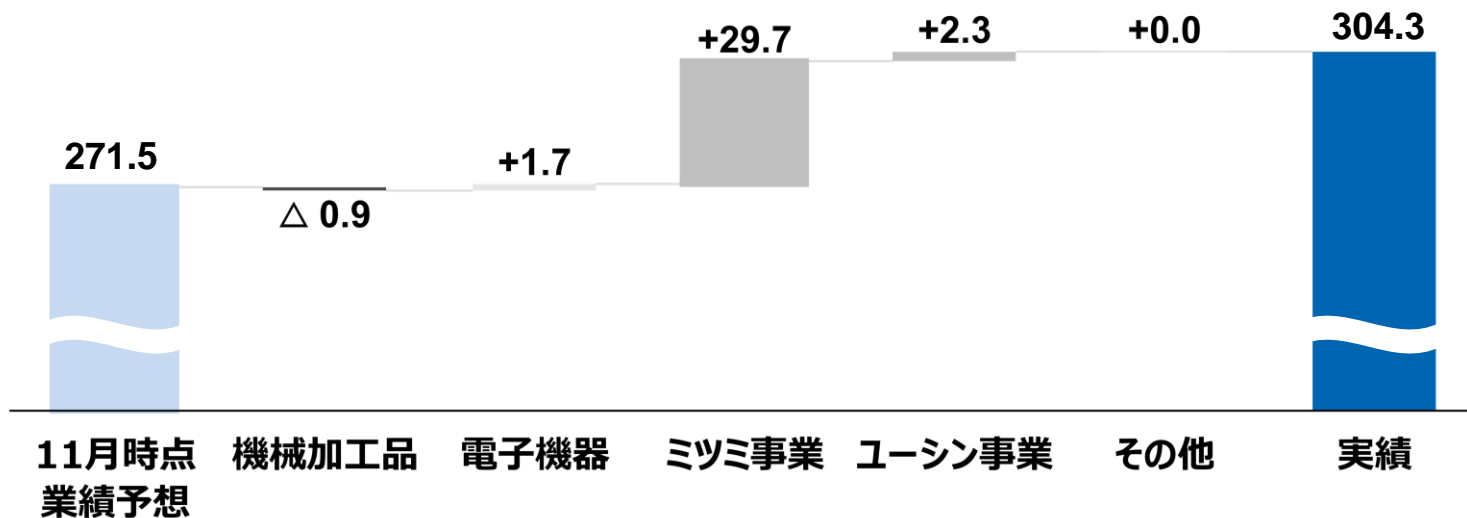
(10億円)



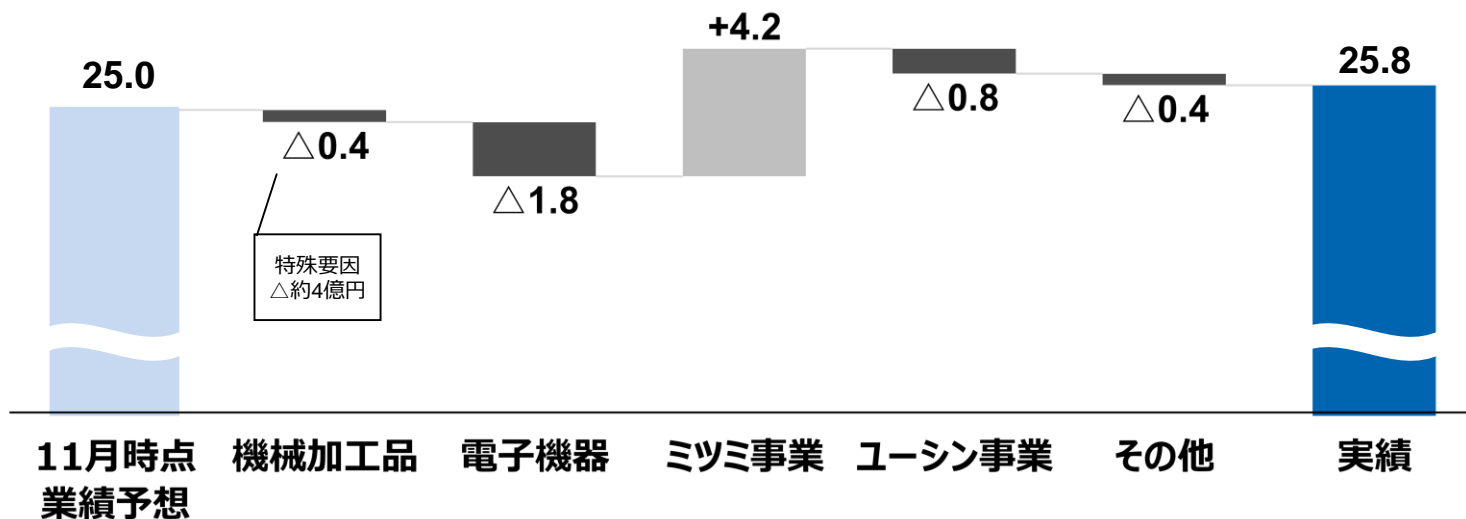
# 3Q実績 11月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高

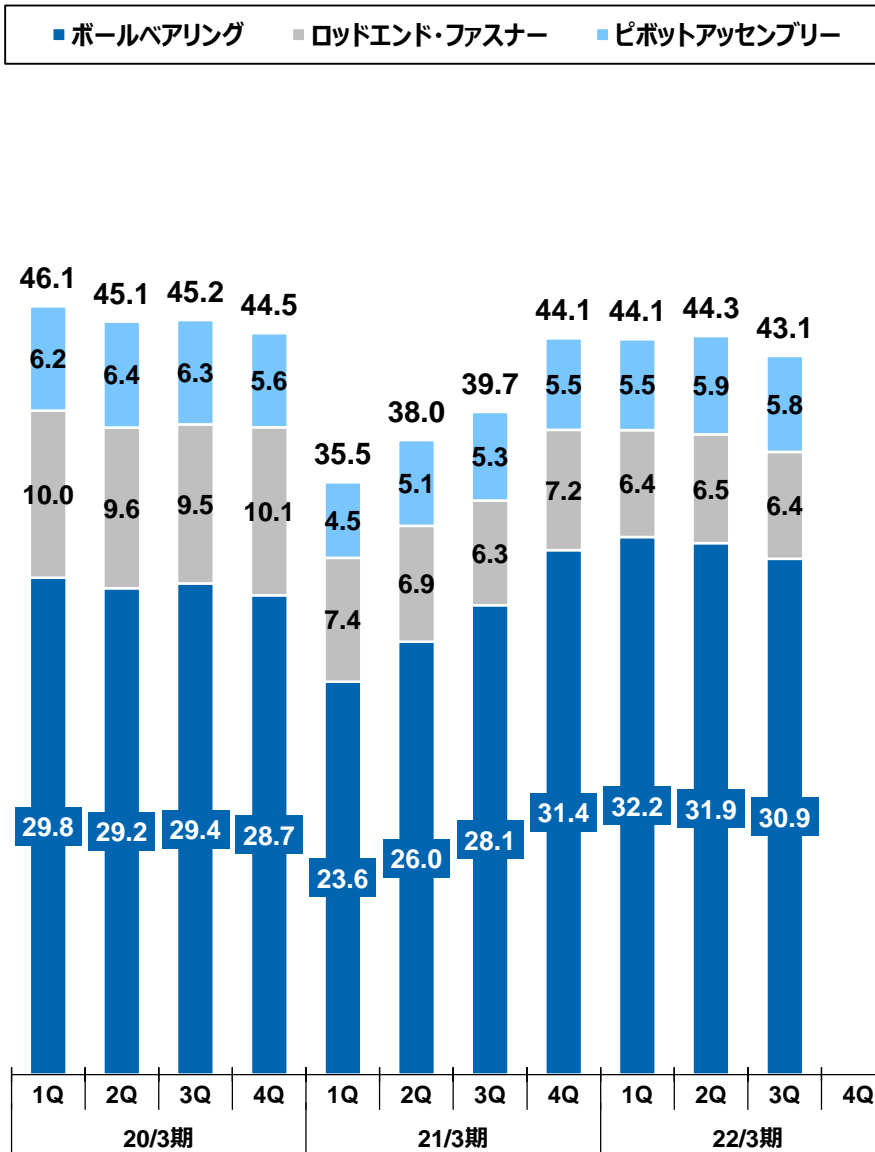


営業利益

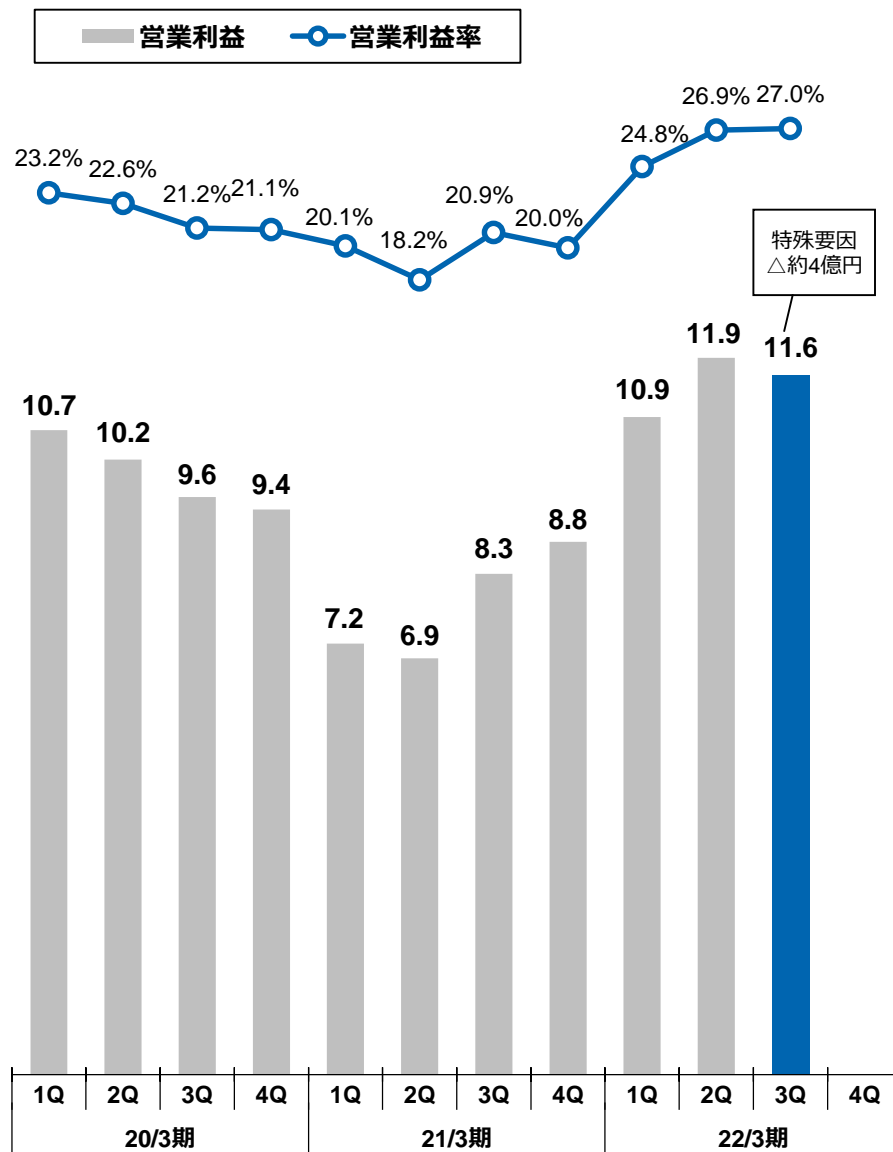


# 機械加工品事業セグメント

## 売上高 (10億円)

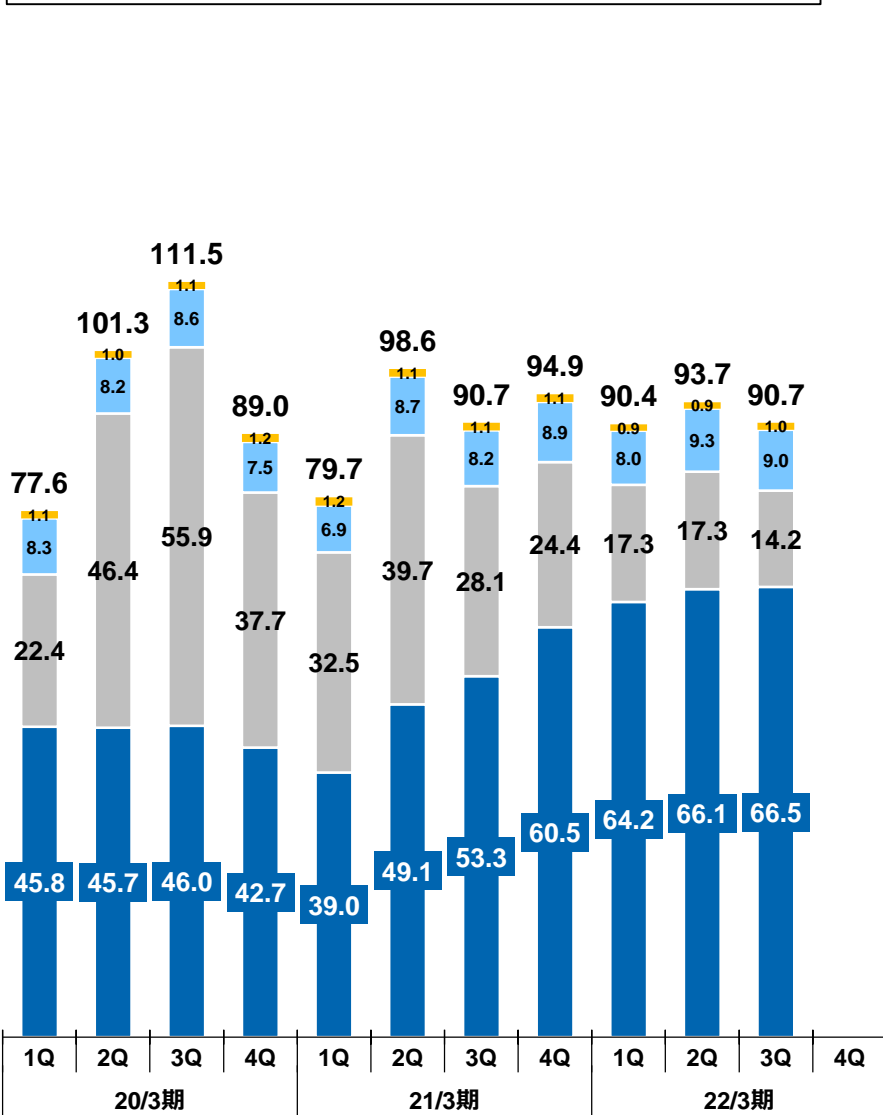
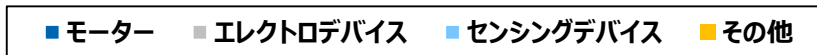


## 営業利益 (10億円)

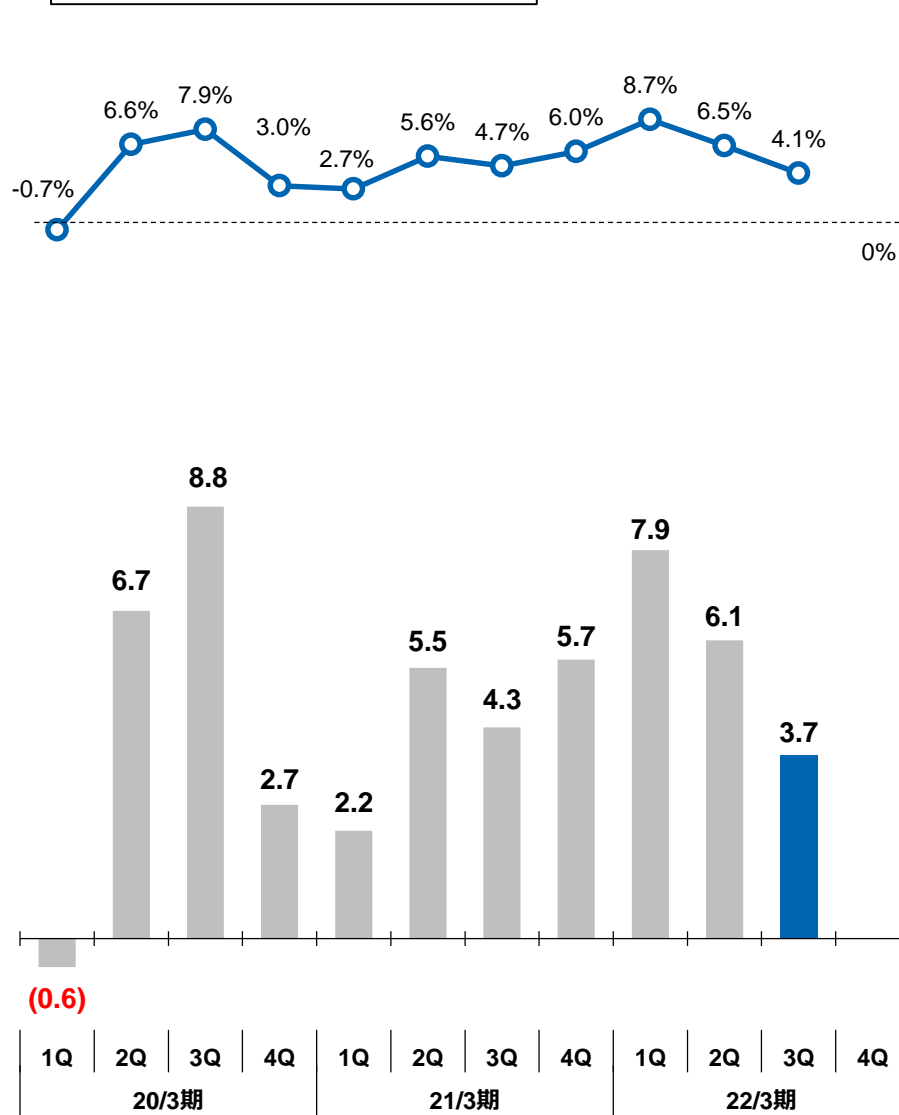


# 電子機器事業セグメント

## 売上高 (10億円)

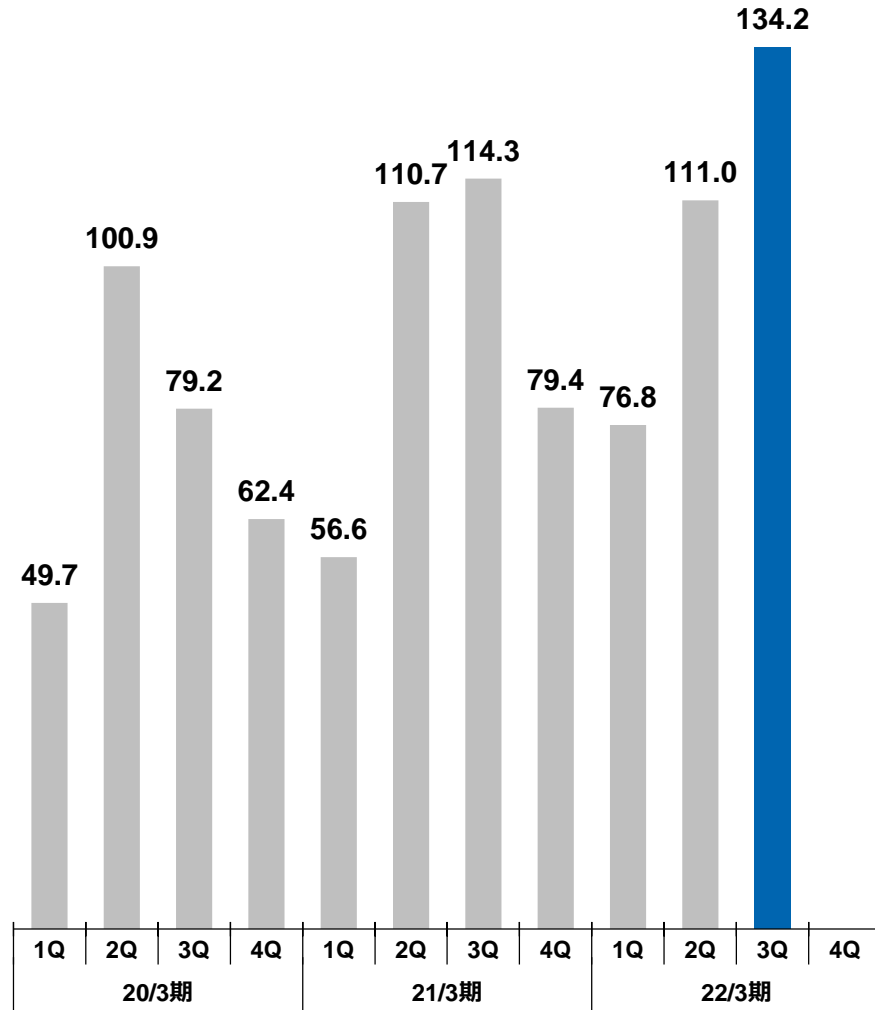


## 営業利益 (10億円)

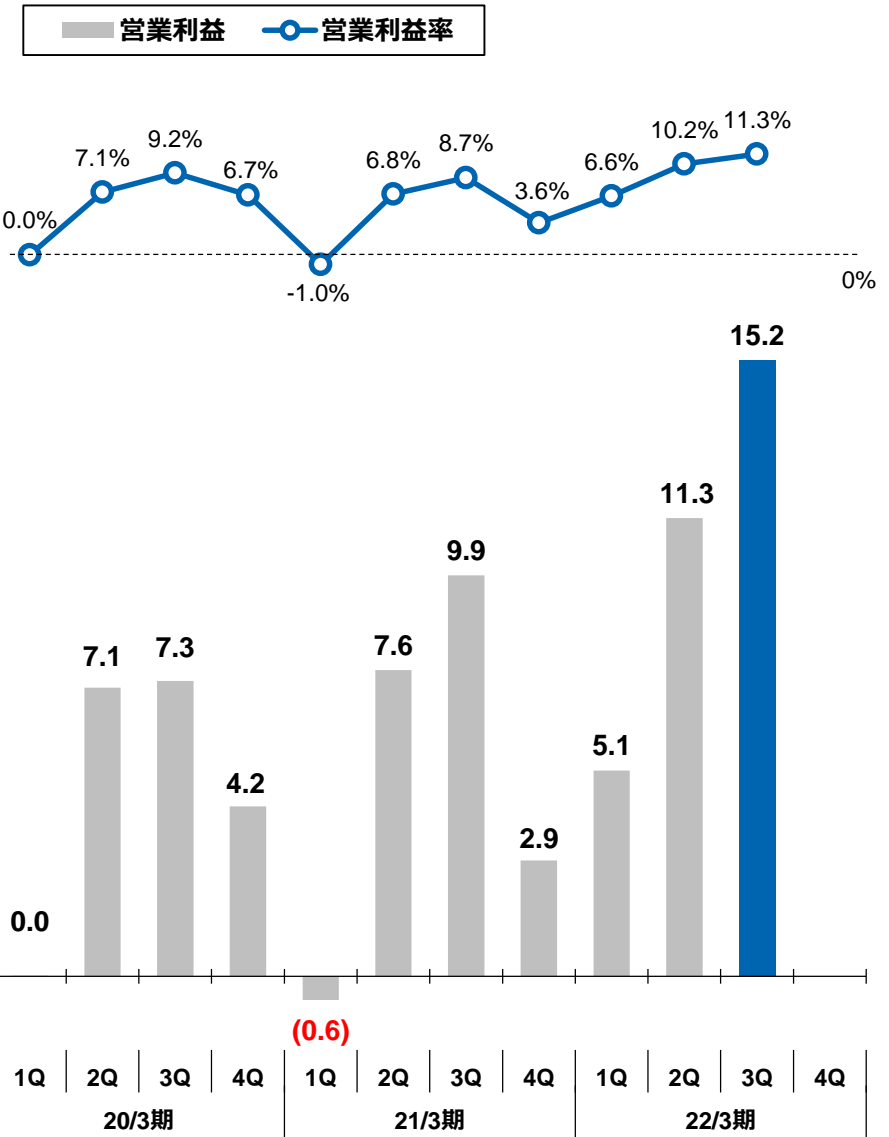


# ミツミ事業セグメント

## 売上高 (10億円)

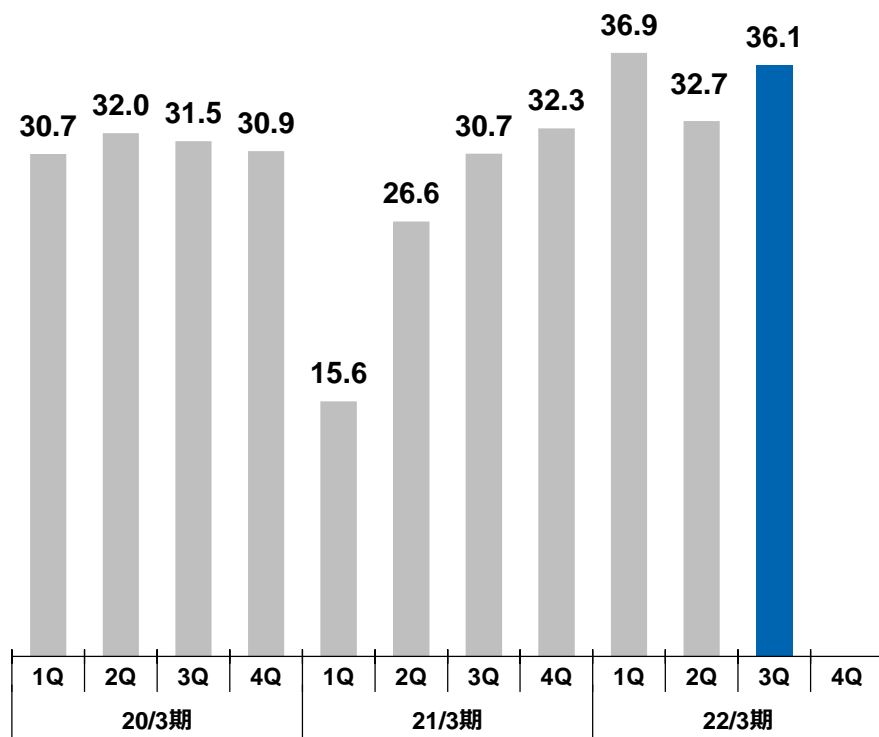


## 営業利益 (10億円)

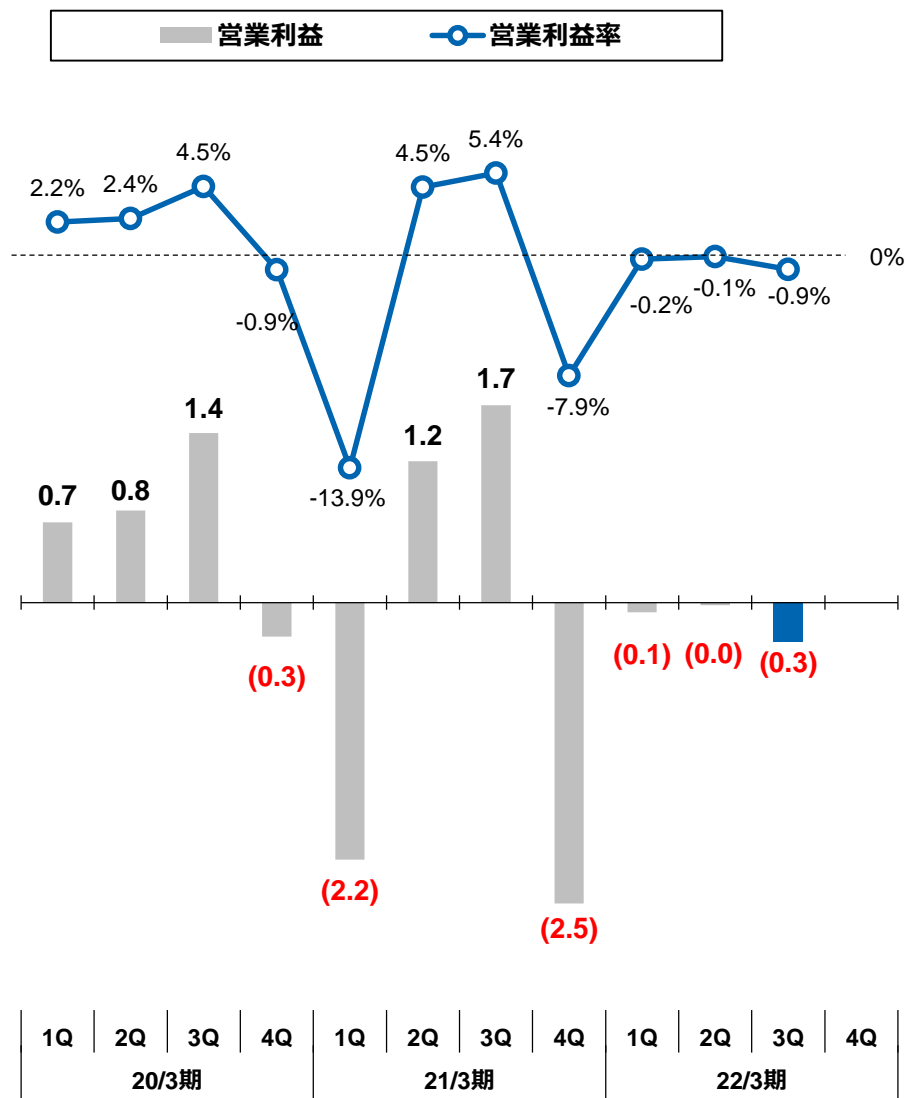


# ユーシン事業セグメント

## 売上高 (10億円)



## 営業利益 (10億円)

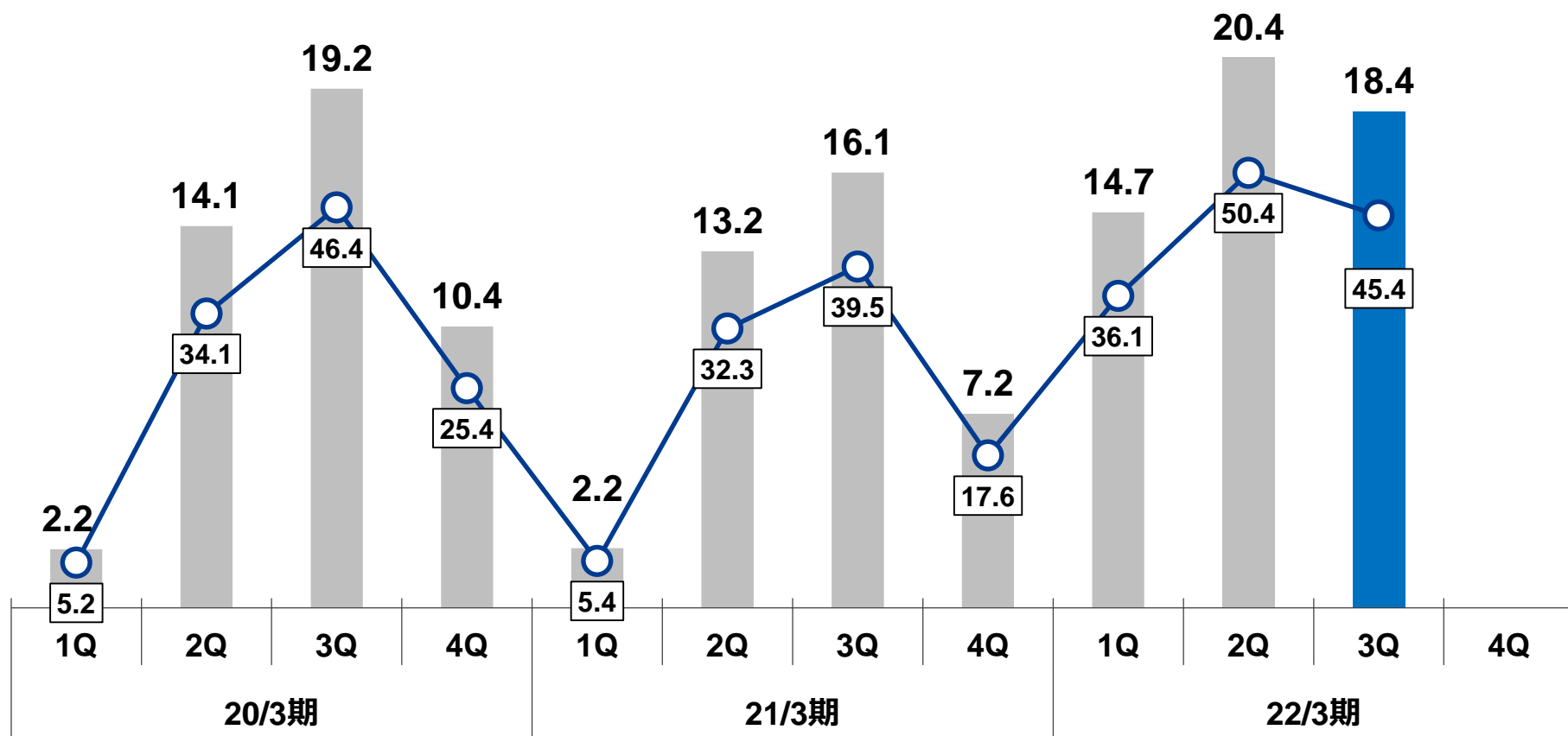




# 親会社の所有者に帰属する四半期利益

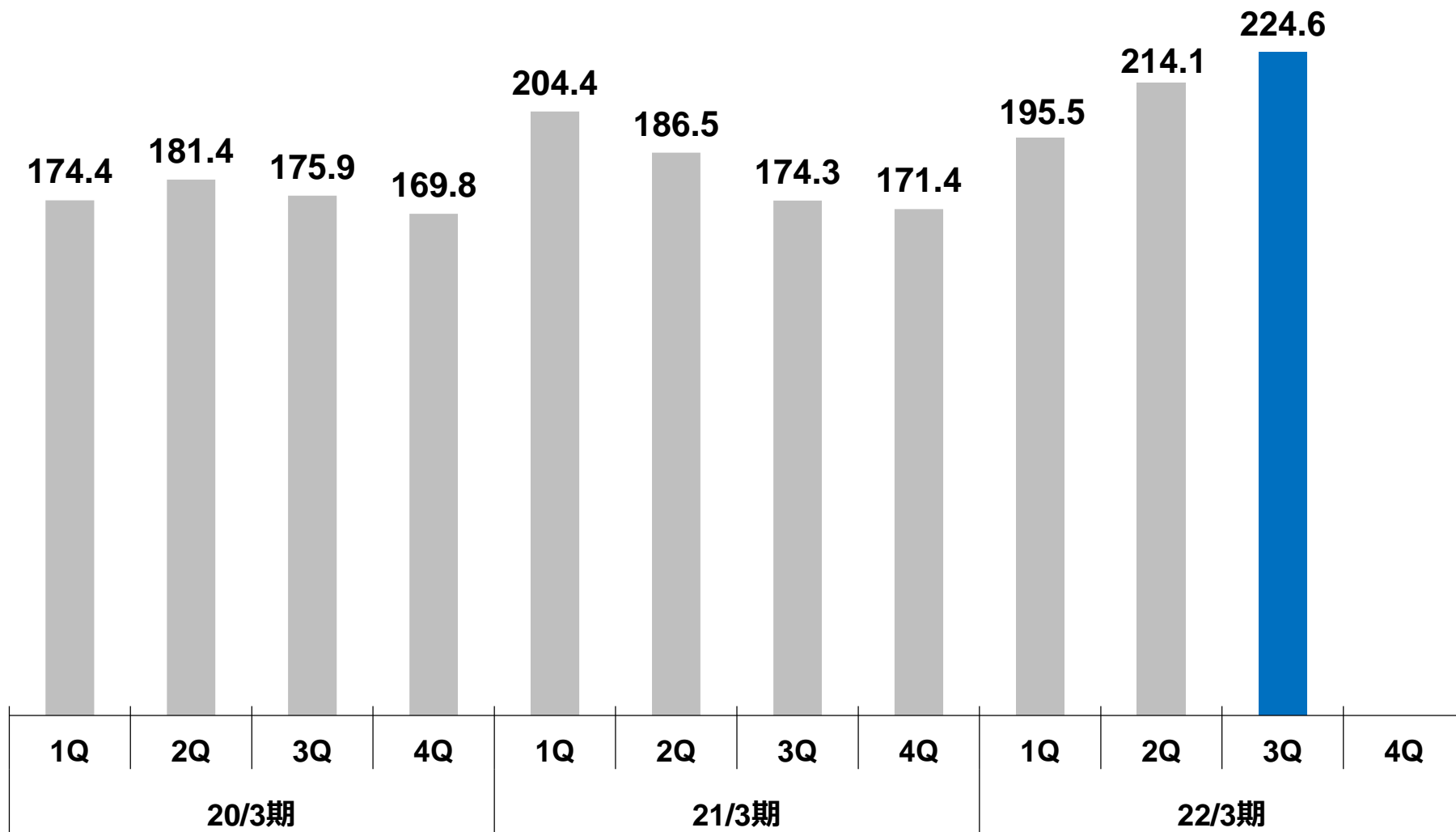
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益  
○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



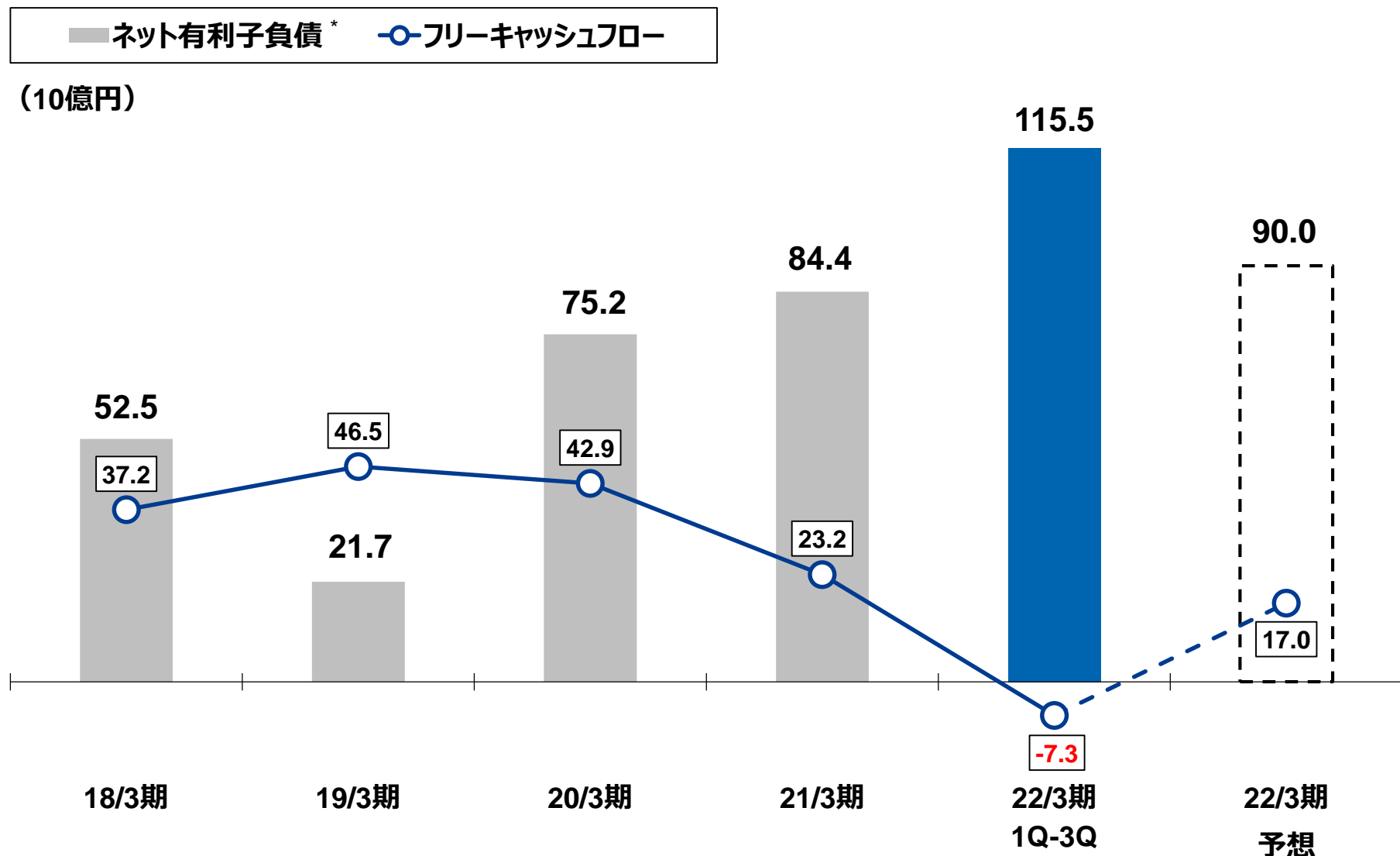
# 棚卸資産

(10億円)



# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期はJGAAP



\*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+ 3か月超の定期預金)

← [JGAAP] →

← [IFRS] →

## 売上高、営業利益、当期利益ともに 見通しを上方修正、過去最高へ

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	530,260	569,740	1,100,000	+11.3%
営業利益	51,166	44,633	47,367	92,000	+79.8%
税引前利益	49,527	44,319	46,681	91,000	+83.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	38,759	35,052	37,448	72,500	+87.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	94.95	86.45	92.46	178.91	+88.4%

為替レート	2021年3月期 通期	2022年3月期 4Q想定
US\$	105.79円	114.00円
ユーロ	123.22円	130.00円
タイバーツ	3.40円	3.45円
人民元	15.52円	18.00円

# セグメント別業績予想

(百万円)	2021年3月期 通期 (組替後)	2022年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	530,260	569,740	1,100,000	+11.3%
機械加工品	157,411	88,357	88,643	177,000	+12.4%
電子機器	345,595	184,127	185,873	370,000	+7.1%
ミツミ事業	352,277	187,710	222,290	410,000	+16.4%
ユーシン事業	132,112	69,579	72,421	142,000	+7.5%
その他	1,029	487	513	1,000	-2.8%
営業利益	51,166	44,633	47,367	92,000	+79.8%
機械加工品	31,223	22,819	23,681	46,500	+48.9%
電子機器	17,685	13,941	9,559	23,500	+32.9%
ミツミ事業	20,458	16,414	22,586	39,000	+90.6%
ユーシン事業	△2,594	△104	104	0	-
その他	△1,908	△910	△1,090	△2,000	+4.8%
調整額	△13,698	△7,527	△7,473	△15,000	+9.5%

## 全体

- 3Qは全般的に材料費／物流費高騰、サプライチェーンの混乱、半導体不足等の影響が継続も**計画上振れ**で着地。
- 4Qは計画上振れで、今期920億円プラスの営業利益を狙う。
- 来期営業利益は1,000億円を**優に超える確度が高まった**。
- **技術開発の徹底強化を推進**する。  
人材の「相合」を加速させ長期的に勝ち抜くための布石を打つ。

## 機械加工品

- ボールベアリングは高い稼働率を維持。4Qから増産効果が発現へ。
- バンパイン新工場の建屋が完成。23年8月のフル稼働に向けて準備。
- 航空機関連事業は来期以降の回復に期待。

## 電子機器 ミツミ事業

- ミツミは経営統合以前を含め**過去最高益達成の見込み**。  
**来期営業利益は優に400億円を超えていくセグメントになった**。
- 半導体は引き続き好調。滋賀工場の立ち上げを加速する。
- 光デバイスは来期の増産に向けた投資を決定。

## ユーシン事業

- 自動車市場の安定的回復に期待。
- ヨーロッパの構造改革は順調に進展。

## 100周年を見据えた戦略の基礎固めとして 最先端の開発拠点の設立へ ～技術でも最強の相合部品メーカーとなる～

- ▶ 蓄積された要素技術や8本槍（エッジデバイス）の相合により製造・販売力としては最強のCapabilityを確立した。  
→売上高の50%が世界No.1シェア製品！
- ▶ 技術・開発でもNo.1の相合部品メーカーとなり、従来の製品群に加え社会的課題解決に資する製品開発に注力する。

### 超精密機械加工技術

### 10のコア技術

### 大量生産技術

センサー技術  
(荷重・圧力など)

光学技術

MEMS技術

高周波技術

電気回路技術

半導体設計技術

機構設計技術

システム設計技術

ベアリング



モーター



アナログ  
半導体



アクセス



8本槍  
(エッジデバイス)

センサー



コネクタ/  
スイッチ



電源



無線通信  
ソフト

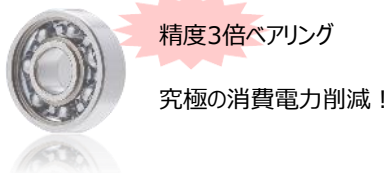


## 従来の成長トレンドに加え 社会的課題解決に資する製品が成長を加速

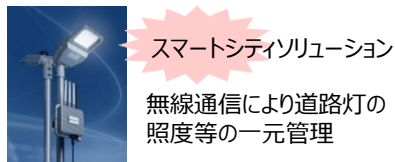
積極参入する社会的課題解決製品の例

Q C D E S S<sup>TM</sup>  
uality ost elivery co /efficiency ervice eed

### エネルギー



### 環境



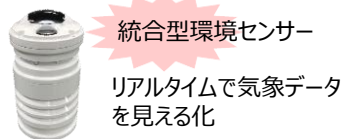
### 少子高齢化



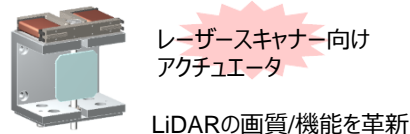
社会的課題  
を  
解決して成長

## 新たなトレンド

### 災害対策



### 自動運転



世界経済の  
発展と  
ともに成長

### 便利・快適



### 高機能



従来のトレンド  
(CAGR 11%)

過去 → 現在 → 将来



## 売上高2.5兆円、営業利益2,500億円の実現に向け 東京の立地を最大限生かす強固なR&Dセンターを設立 ～ニーズあるところを徹底強化する～

地の利を生かし  
優秀な人材を確保

人材の相合を活性化する

- ✓ 当社をより強靱化させる技術者の参画を活性化
- ✓ 外部大学や研究機関との連携を加速

8本槍の強靱化と  
新しい槍の創設

将来のM&Aを含む

従来のトレンド

- ✓ 確立した槍の強化
- ✓ 確立していない槍の強化

新たなトレンド

- ✓ 新たな槍の創出

技術シナジーの  
徹底追求

ミツミ統合後のPMIを完結

- ✓ M&Aを通して獲得した多様な技術を融合し、シナジー創出を加速させる
- ✓ 機械、電子、ソフトの技術者の融合

取得資産

土地・建物（日本通運株式会社 旧本社事務所、他）

所在地

東京都港区東新橋1丁目9-3

敷地面積

5,518.54m<sup>2</sup>

延床面積

53,078.82m<sup>2</sup>

取得価額

732億円

売買契約締結日

2021年12月24日

引渡期日

2022年4月15日（予定）



業績に与える影響

2022年3月期連結決算に与える影響はありません。

## 取得後の財務への影響について

- ・ 既存ビル（三田、多摩）は売却を検討中
- ・ 償却コストは移転後も同等水準
- ・ その他追加コストはシナジー創出で十分カバー

## 大阪も東京とともに開発体制と技術陣を強化し 中長期的成長の基礎固めをする

### 主なポイント

1 TRDC（東京R&Dセンター）  
との連携

2 関西地区における開発部門と  
営業部門を一堂に集約

ミネベアミツミ、エイブリック、ユーシンの  
開発+営業部門で最大の効果を生み出す

3 IoTソリューションの基盤強化

4 関西地区における産学協業の  
推進

#### 関西地区

##### 開発部門

- ・ ミネベアミツミ
- ・ ユーシン・ショウワ
- ・ ユーシン・産機

##### 営業部門

- ・ ミネベアミツミ
- ・ エイブリック



大阪市淀川区

#### 主要開発分野



モータードライバー



アクセス製品



ロボット関連



医療機器



スマートシティ



画像認証技術

## 3本槍+1が営業利益1,000億円超えをけん引する

### 外部環境 の改善

半導体不足：影響を受けたすべての市場の回復  
自動車市場：回復に向かうと予想  
原材料価格：最悪期は脱した  
COVID-19：サプライチェーンの稼働減は解消へ  
航空機関連：旅客需要の回復



#### ベアリング

能力増強（+20百万個/月）と自動車の回復



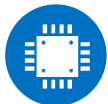
#### 航空機関連

営業利益はコロナ前の70%まで回復



#### モーター

自動車向け新規製品の市場投入が加速



#### アナログ半導体

好調は来期も続く  
滋賀工場立ち上げとMEMS拡販



#### OIS

売上高は今年度比1.3倍へ（最低ラインとして）



#### アクセス製品

ユーシンの利益は改善



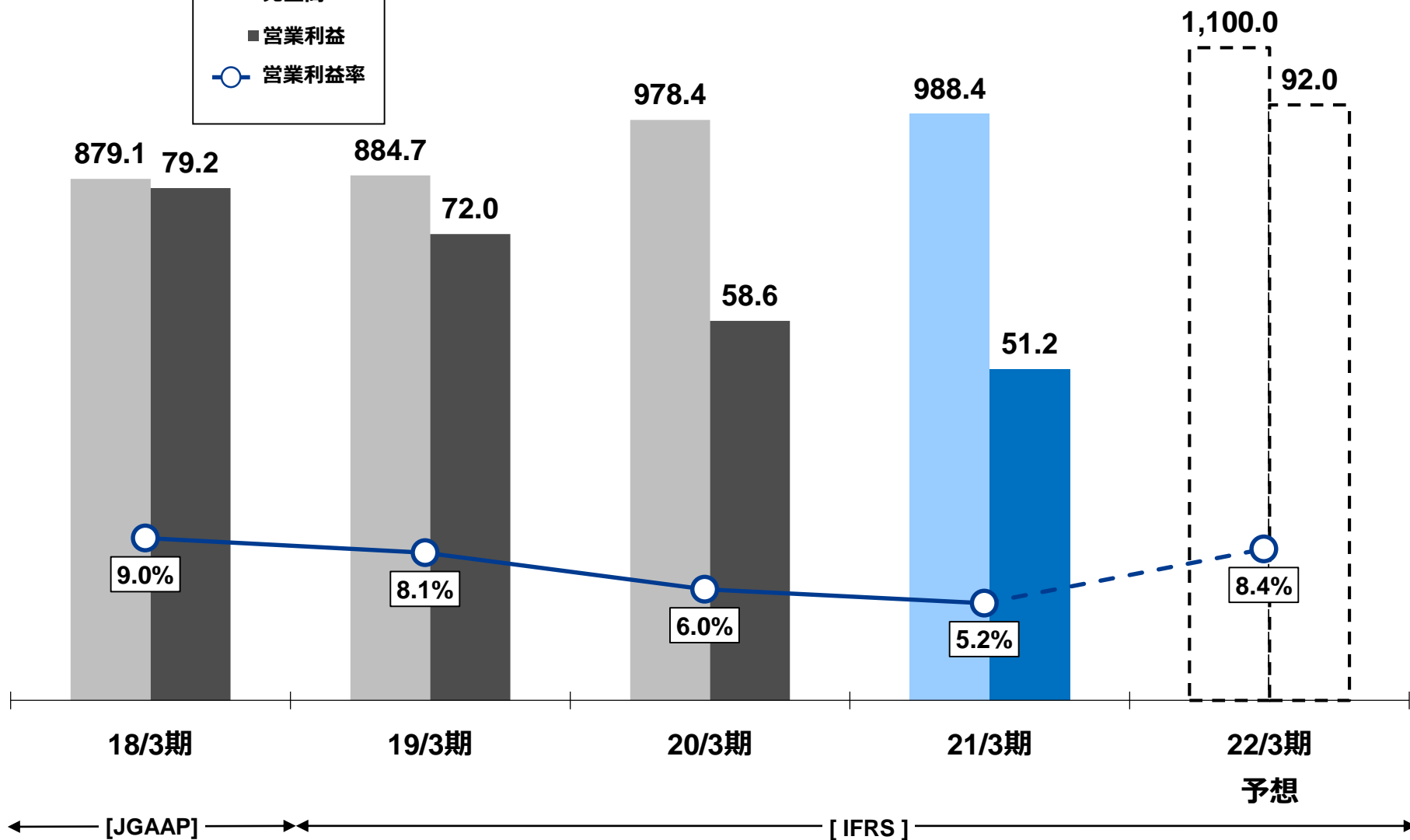
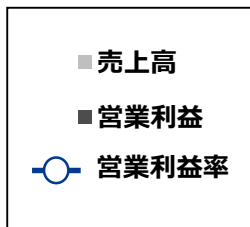
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

# 參考資料

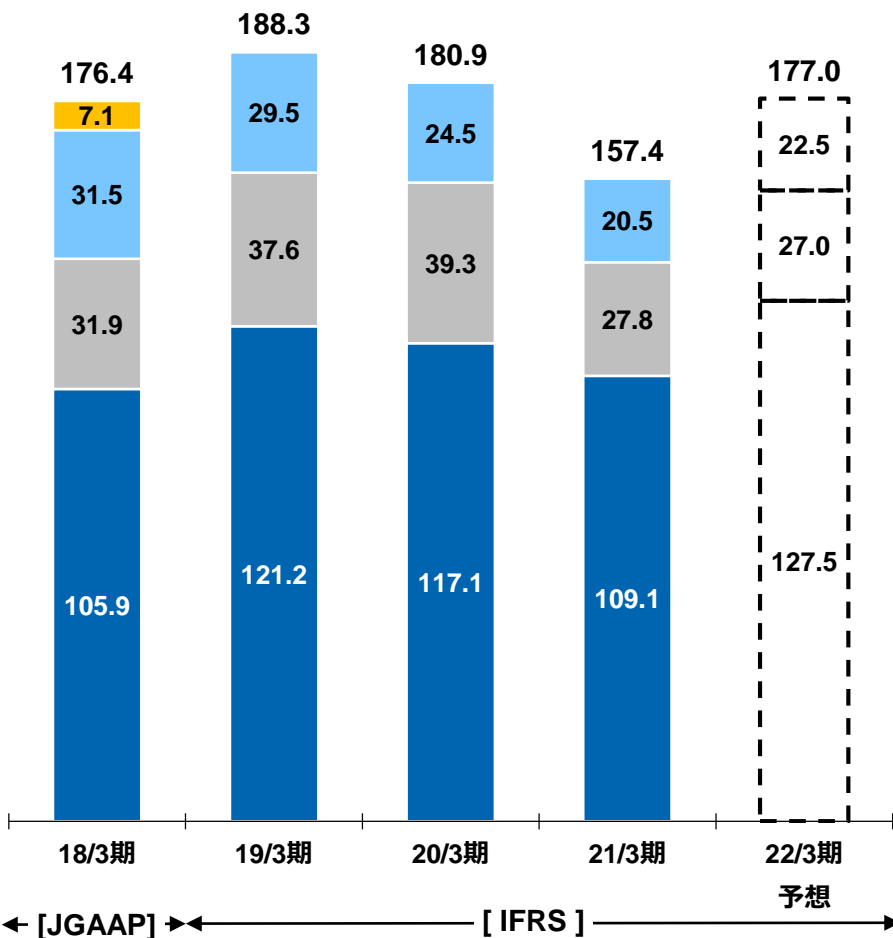
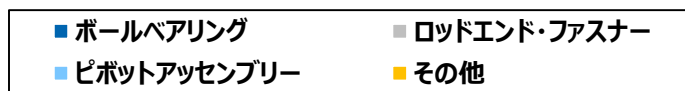
# 売上高、営業利益、営業利益率

18/3期はJGAAP

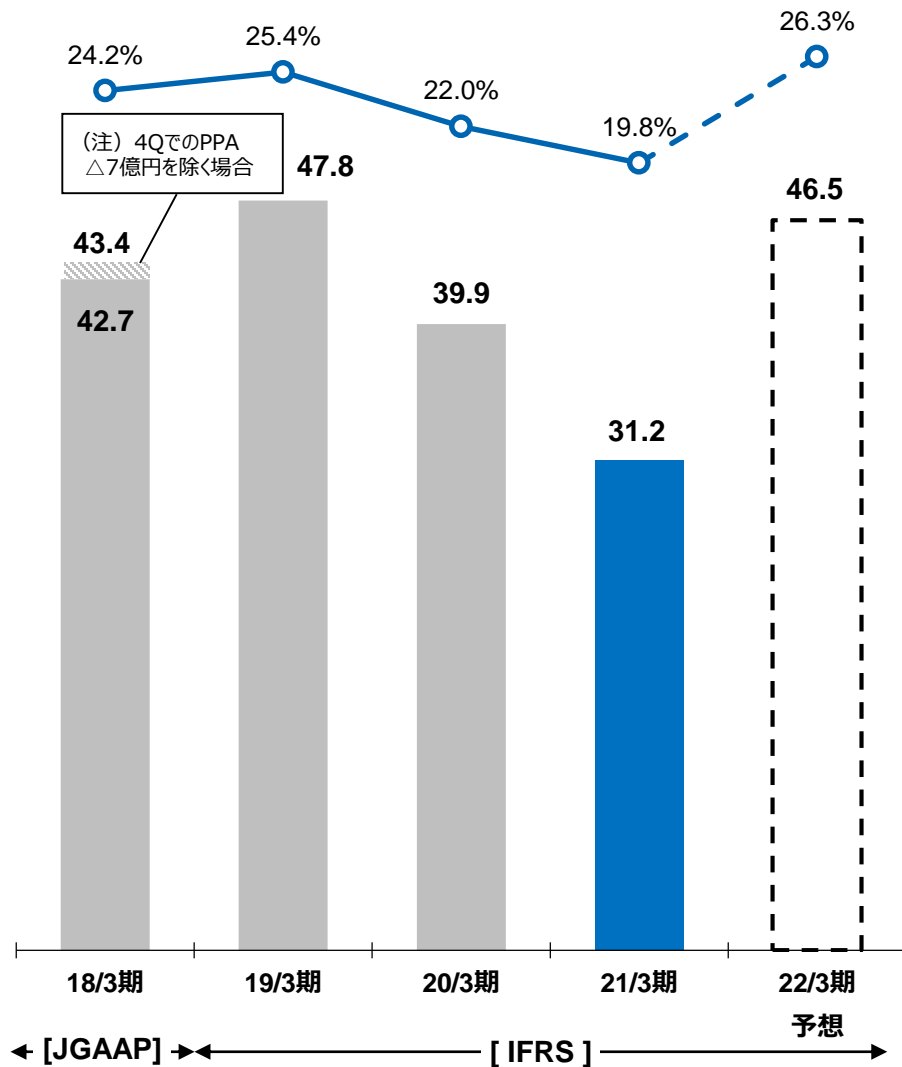
(10億円)



## 売上高 (10億円)

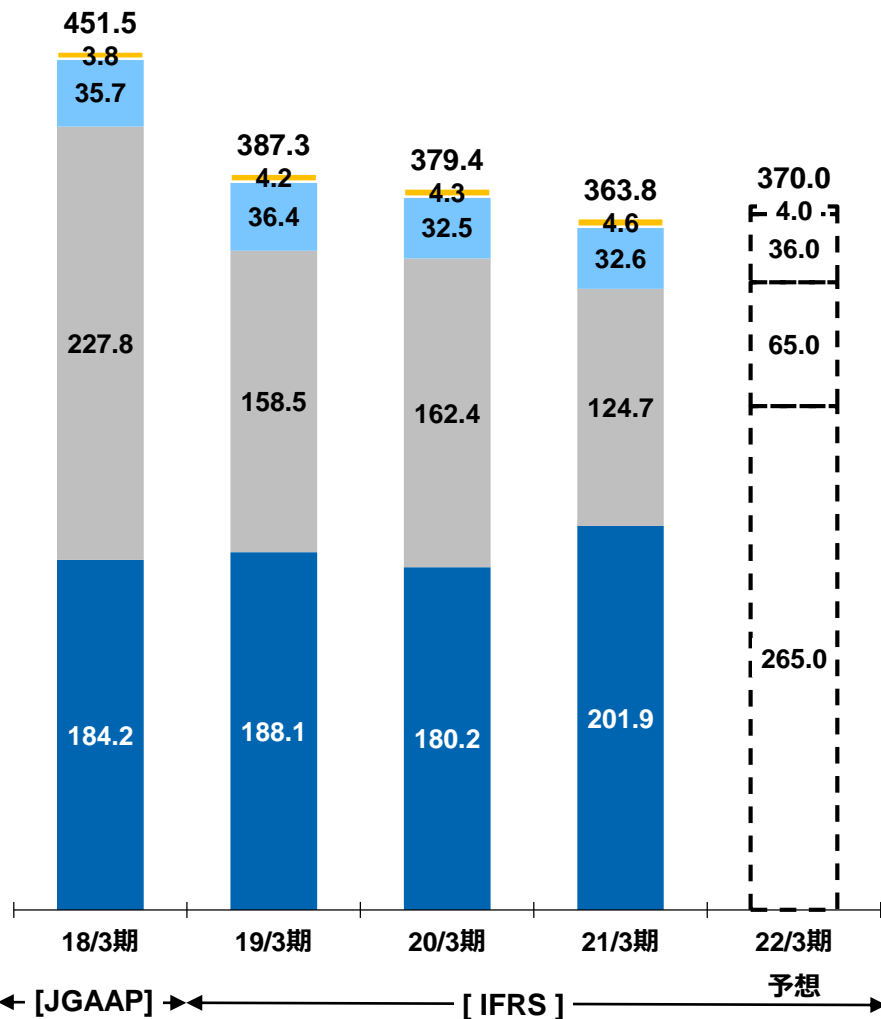
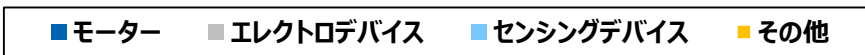


## 営業利益 (10億円)

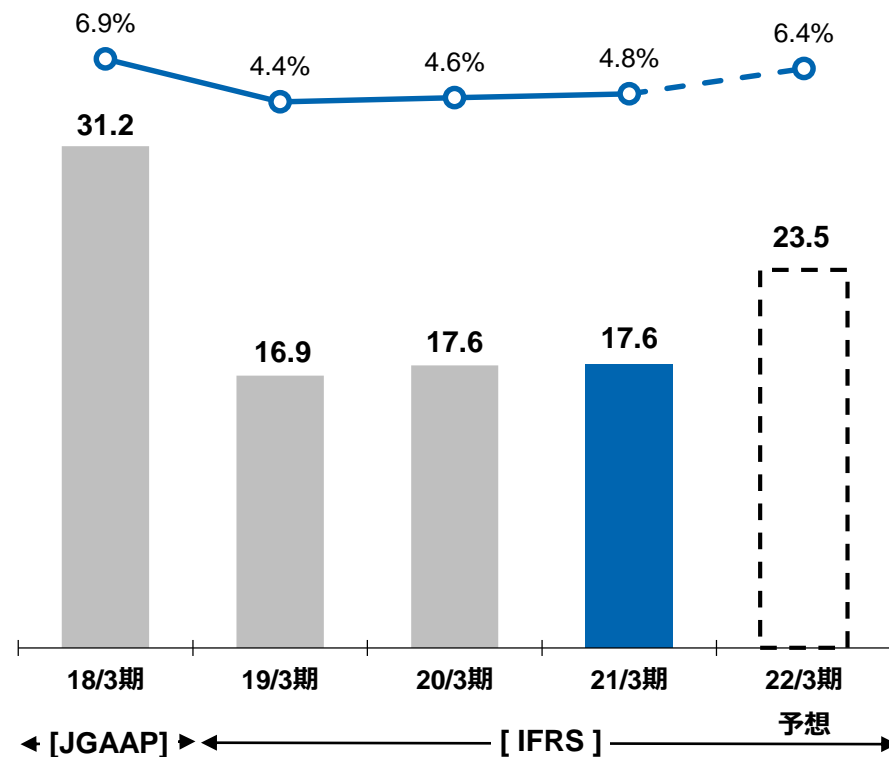




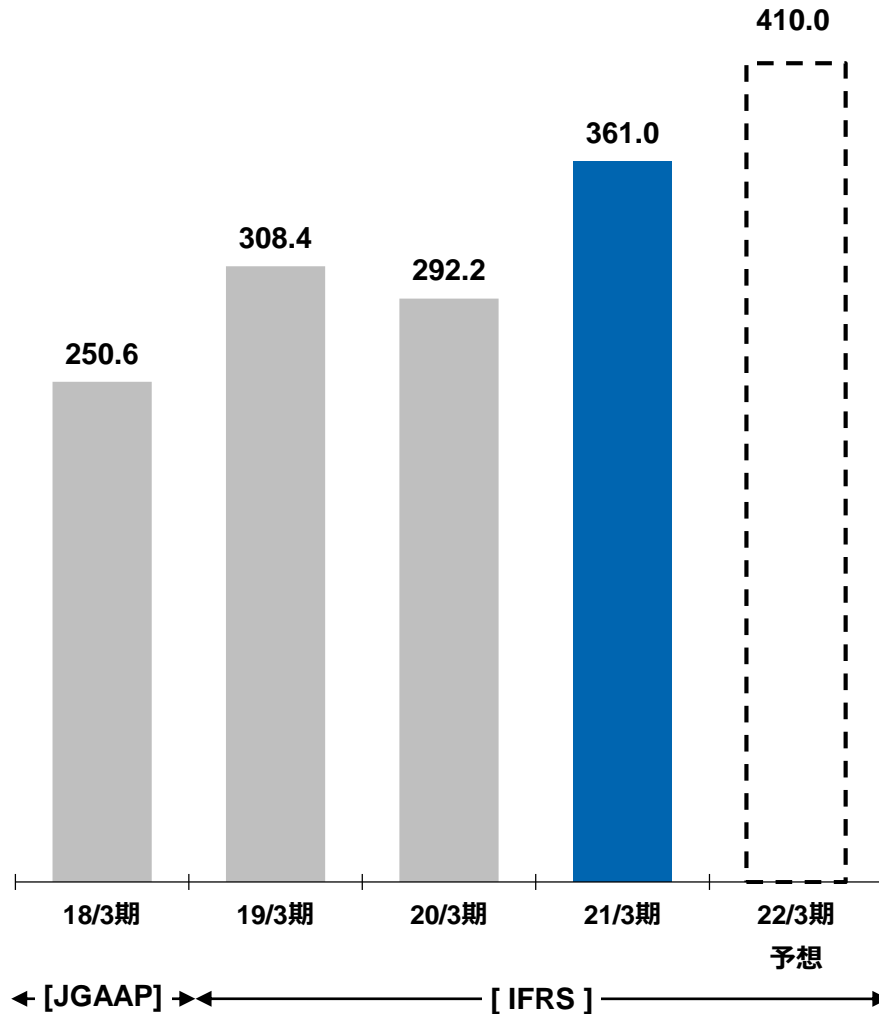
## 売上高 (10億円)



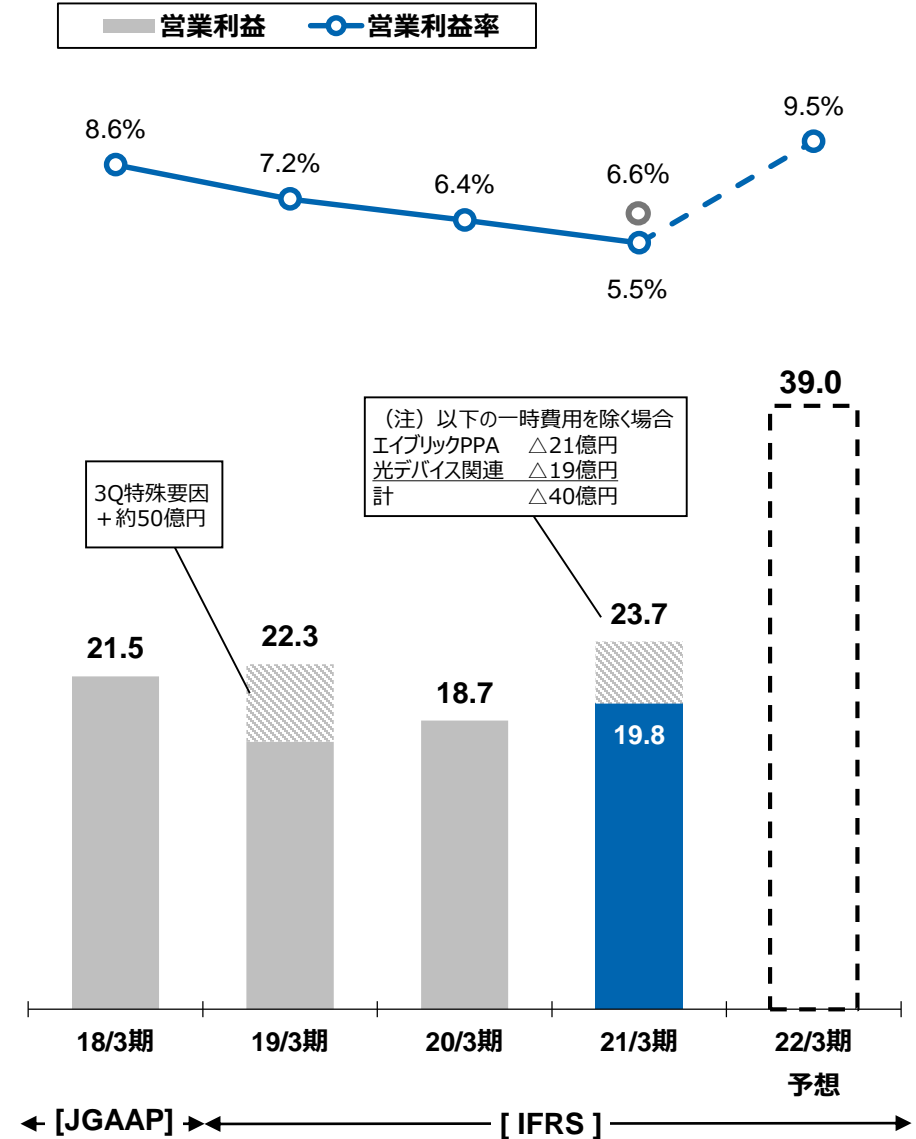
## 営業利益 (10億円)



## 売上高 (10億円)



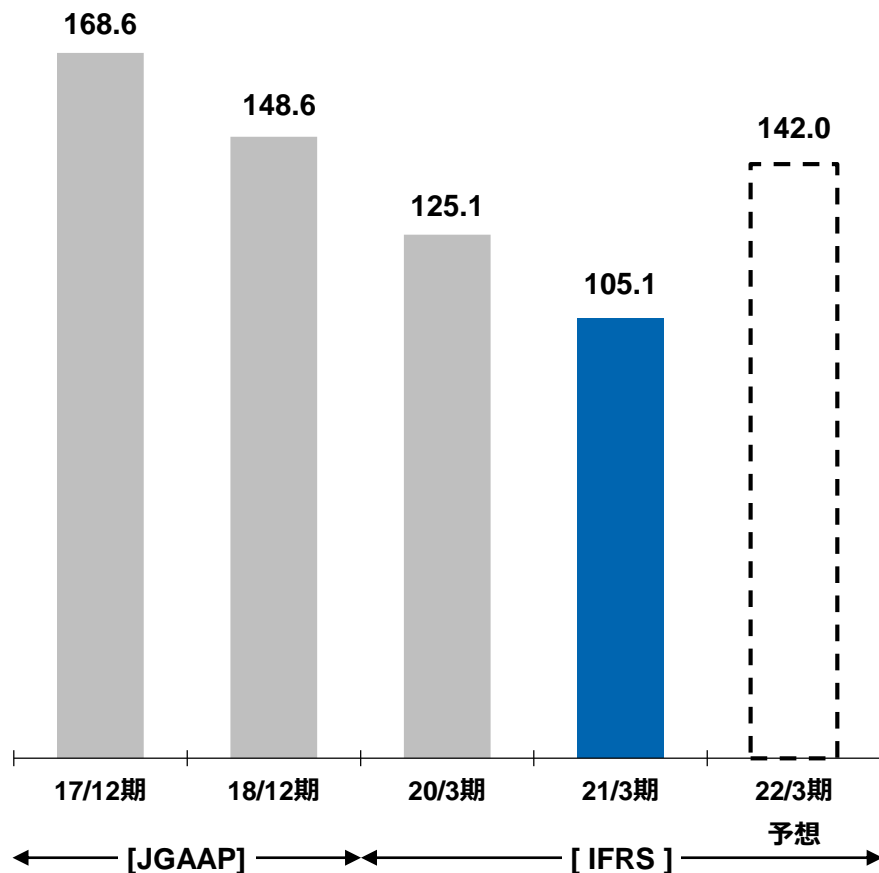
## 営業利益 (10億円)



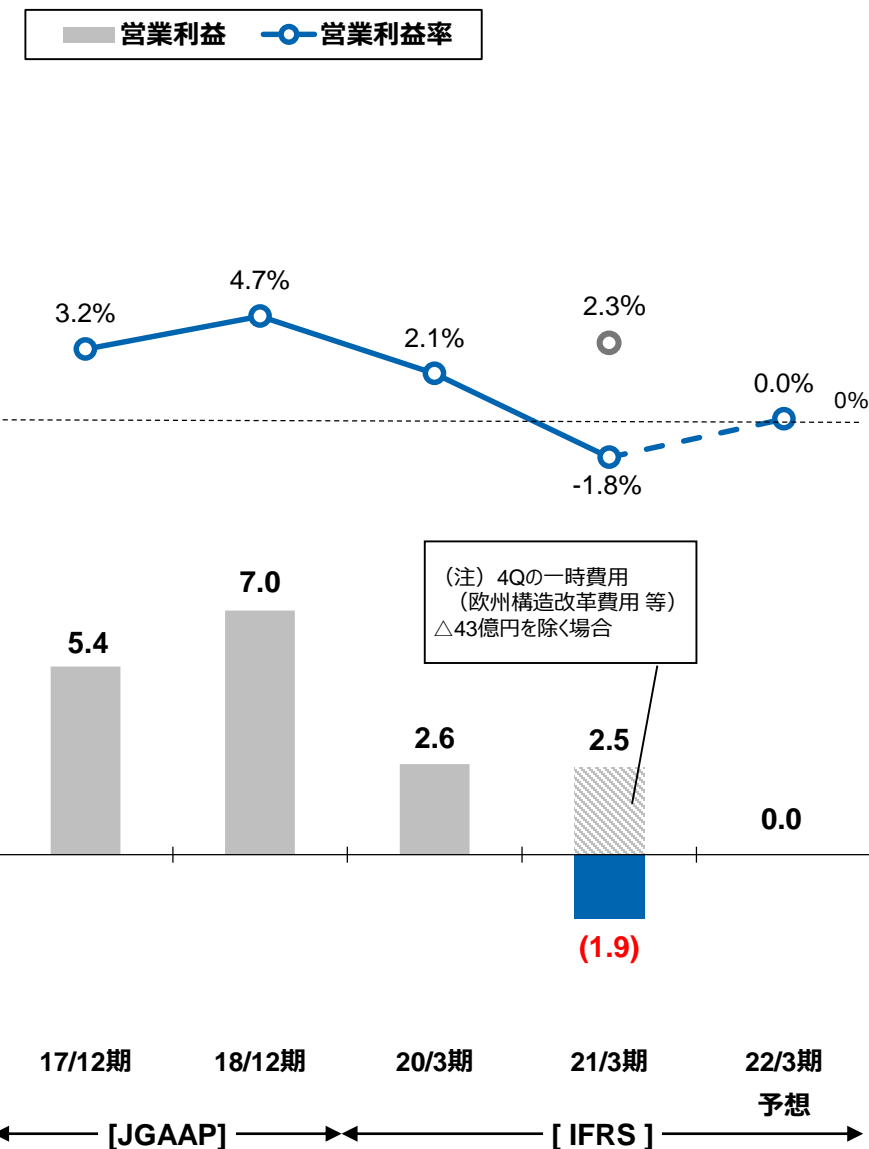
# ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算  
 18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP  
 20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

## 売上高 (10億円)



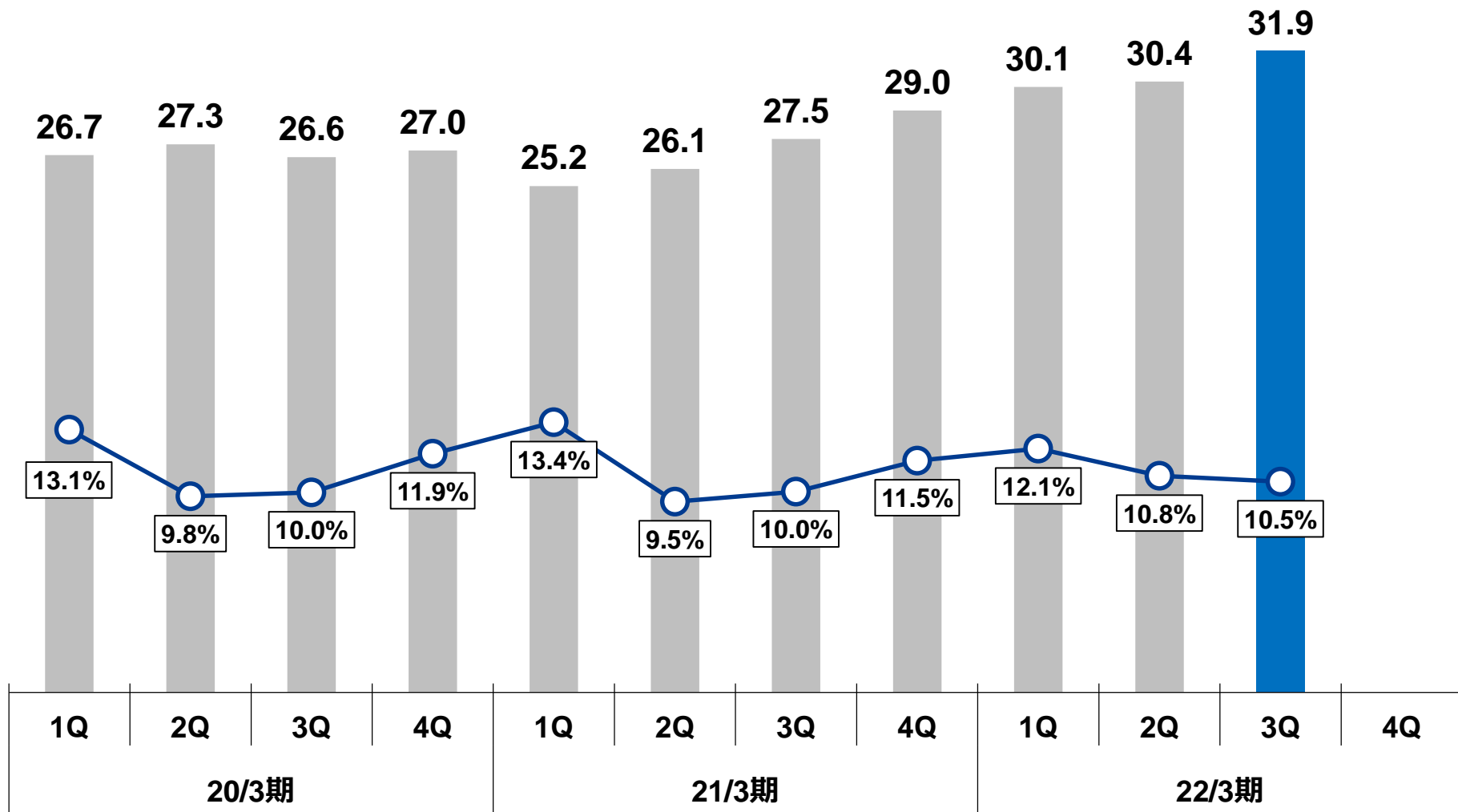
## 営業利益 (10億円)



# 販管費

(10億円)

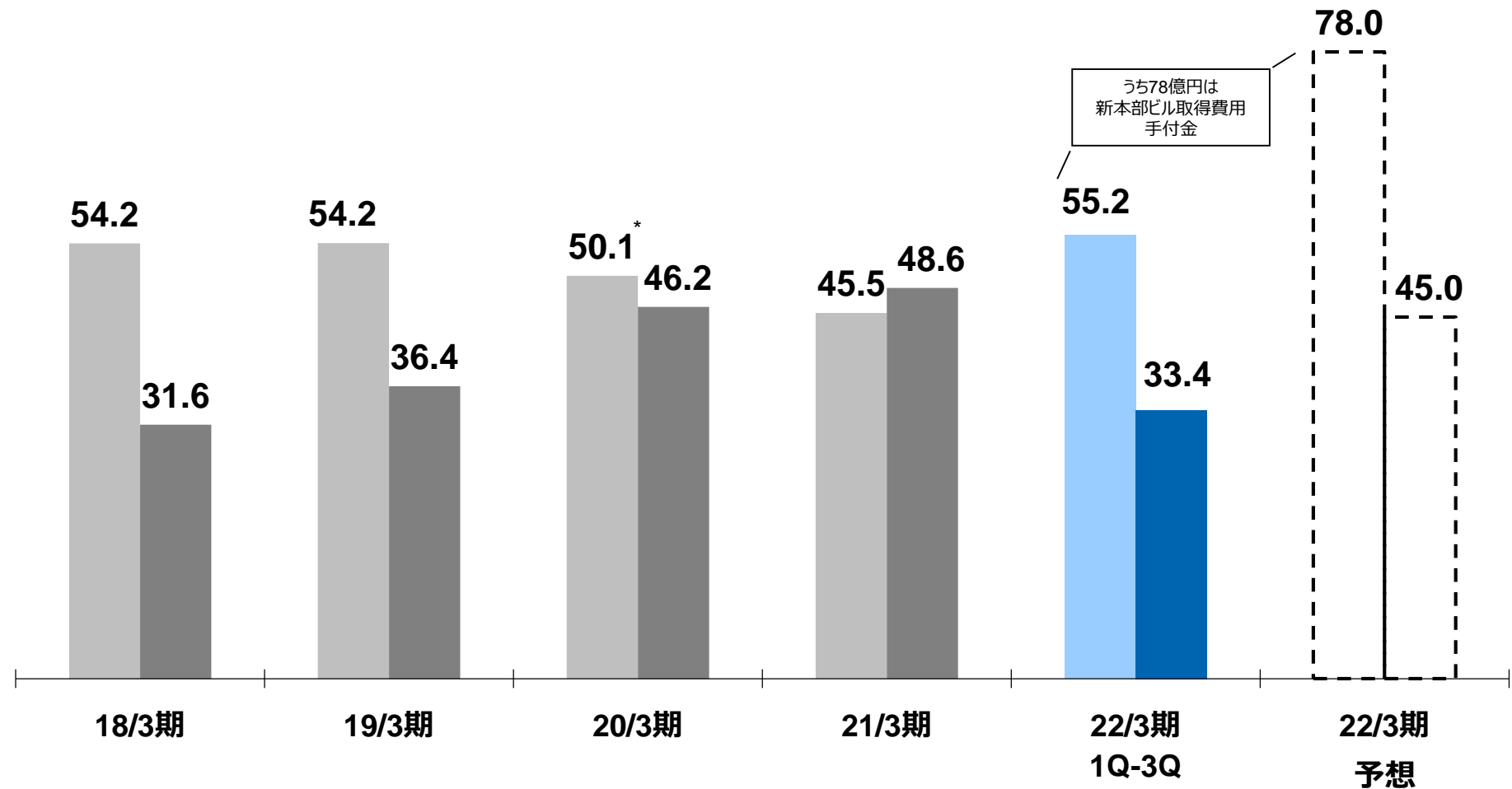
■ 販管費    ○ 売上高販管費比率



# 設備投資額・減価償却費

18/3期はJGAAP

(10億円)



\*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。

← [JGAAP] → → [IFRS] →

# ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

ミネベアミツミ版  
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益 + 特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形 + 売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 支払手形 - 買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

(%)

